

『防災ワークブック～僕たちの阪神大震災ノート～(仮題)』の構成内容

〔編著者〕 防災調べ学習研究会（事務局＝一橋出版編集部）

〔発行〕 一橋出版株式会社

〔概要とねらい〕

阪神・淡路大震災から14年。その後も、鳥取県西部地震、新潟県中越地震、能登半島沖地震、岩手・宮城内陸地震など、全国で大きな地震が頻発しています。さらに、東南海・南海地震、東海地震、首都直下地震、大阪平野直下地震（上町断層地震）などが予想されています。また、海外では、中国・四川省の大地震やミャンマーの大型ハリケーンなど、未曾有の大災害も相次いで起こっています。

「阪神大震災って何だったの?」「そのとき、どうなったの?」…。1999年刊（2003年増補版刊）の『語り継ぎたい。命の尊さ～阪神大震災ノート』を読んだ、生徒・学生の素朴な疑問から、「次に、私たちの街が震災にあったら、どうしたらいいのか」「どこかで大災害が起こったとき、私たちにできることはなにか」という実践へと展開するきっかけになるような実践書にしたいと考えます。

また、事件や事故、災害ばかりでなく、いじめや虐待、そしてネット自殺などが多発している今、本書が、あらためて命の大切さを考える機会となればと思います。

〔主な構成〕

▽はじめに 『語り継ぎたい。命の尊さ～阪神大震災ノート』出版後の反響と防災教育の現状。

▽全国の小・中学生、高校生、大学生のグループによる活動記録

有志のグループを募り、『語り継ぎたい。命の尊さ～阪神大震災ノート』を読んで、感じたことや疑問に思ったことからスタートし、調査・取材などのフィールドワーク活動を行ってもらいます。テーマの決定や行動プランの作成から、実際の活動と報告まで、試行錯誤の過程も含めて紹介します。

▼参加者は、リサーチの基本やインタビューのコツ、効果的な伝え方などを学びます。

▼一方で、調べた結果は、貴重なルポルタージュとして、記録に残ります。

▼今回のプロジェクトに参加した参加者の行動すべてが、後世へ「語り継ぐ」ムーブメントとなるはずです。

▽おわりに ーいまわたしたちにできることー

今回のプロジェクトに取り組んだ各地の指導者や防災教育の専門家が、参加グループの活動から見えてきた今後の防災教育の展望を語る。

〔刊行予定〕 2009年9月（予定）

以上